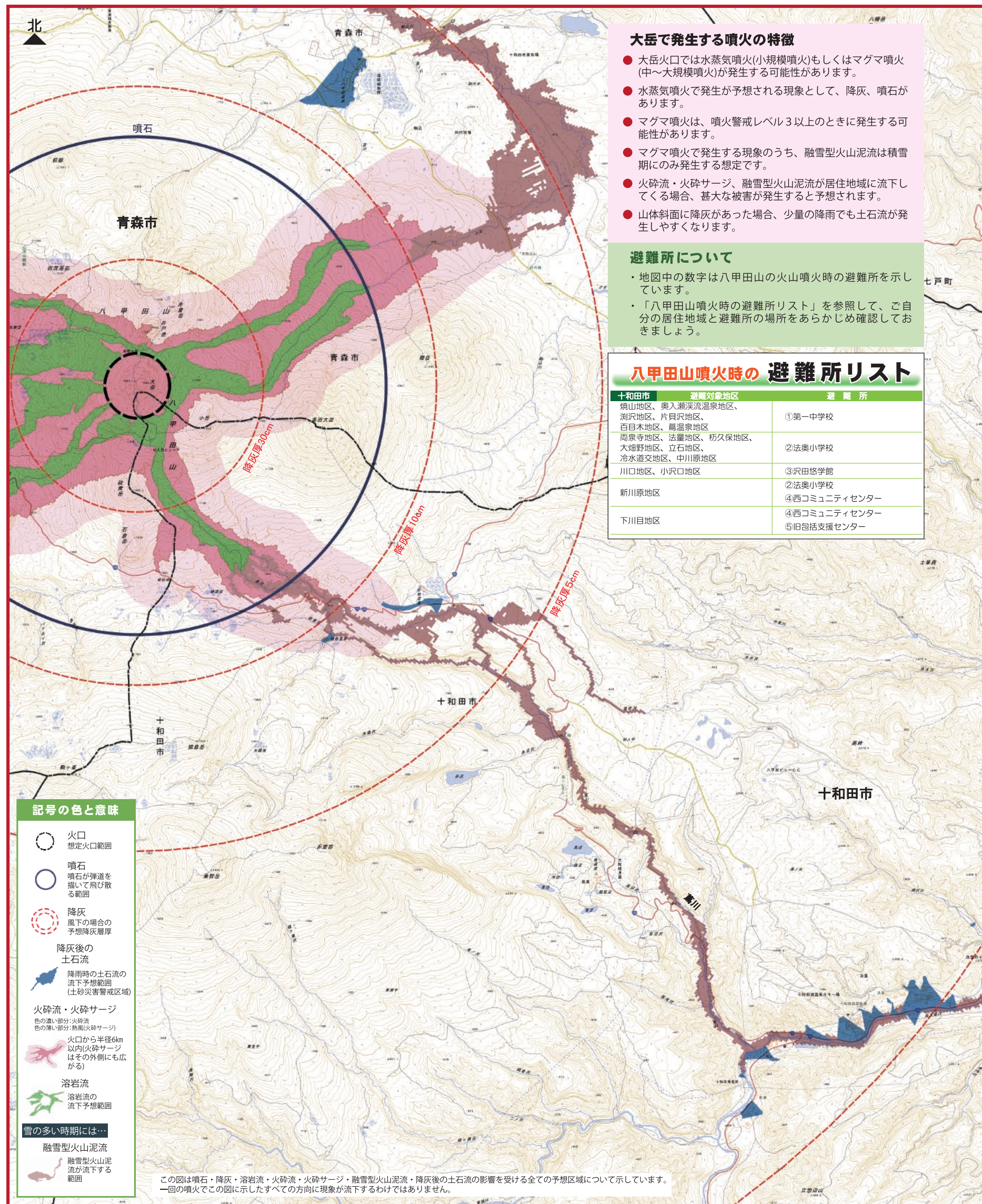


13 八甲田山火山防災マップ

マグマ噴火の場合（大岳 大規模噴火）

大規模噴火：噴火警戒レベル3以上の段階で発生する現象と影響範囲

火砕流・火砕サージはレベル3以上で発生
融雪型火山泥流はレベル4以上で、かつ、積雪期にのみ発生



大岳で発生する噴火の特徴

- 大岳火口では水蒸気噴火(小規模噴火)もしくはマグマ噴火(中〜大規模噴火)が発生する可能性があります。
- 水蒸気噴火が発生が予想される現象として、降灰、噴石があります。
- マグマ噴火は、噴火警戒レベル3以上のときに発生する可能性があります。
- マグマ噴火で発生する現象のうち、融雪型火山泥流は積雪期にのみ発生する想定です。
- 火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に流下してくる場合、甚大な被害が発生すると予想されます。
- 山体斜面に降灰があった場合、少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。

避難所について

- 地図中の数字は八甲田山の火山噴火時の避難所を示しています。
- 「八甲田山噴火時の避難所リスト」を参照して、ご自分の居住地域と避難所の場所をあらかじめ確認しておきましょう。

八甲田山噴火時の避難所リスト

十和田市	避難対象地域	避難所
十和田市	横山地区、奥入瀬清流温泉地区、湖沢地区、片貝沢地区、百目木地区、湯温泉地区	①第一中学校
	西泉寺地区、法皇地区、柗久保地区、大権野地区、立石地区、冷水道交地区、中川原地区	②法皇小学校
	川口地区、小沢口地区	③沢田悠学館
	新川原地区	④西コミュニティセンター
	下川目地区	⑤旧包括支援センター

記号の色と意味

- 火口 想定火口範囲
- 噴石 噴石が弾道を描いて飛び散る範囲
- 降灰 風下の場合の予想降灰層厚
- 降灰後の土石流
- 降雨時の土石流の流下予想範囲(土砂災害警戒区域)
- 火砕流・火砕サージ 色の濃い部分:火砕流 色の薄い部分:熱風(火砕サージ) 火口から半径6km以内(火砕サージはその外側にも広がる)
- 溶岩流 溶岩流の流下予想範囲
- 雪の多い時期には... 融雪型火山泥流 融雪型火山泥流が流下する範囲

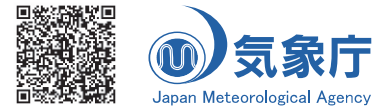
この図は噴石・降灰・溶岩流・火砕流・火砕サージ・融雪型火山泥流・降灰後の土石流の影響を受ける全ての予想区域について示しています。一回の噴火でこの図に示したすべての方向に現象が流下するわけではありません。

八甲田山の噴火警戒レベル

令和元年7月運用開始

種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別 警戒 報	噴火警戒報(居住地域)	居住地域及びそれより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 大岳火口 約4800年前の噴火、約4200年前の噴火、約3100年前の噴火
			4(避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備等が必要。要配慮者及び特定地域の避難等が必要。	●融雪型火山泥流が居住地域に到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 なし
警戒 報	噴火警戒報(火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3(入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制など危険な地域への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難、要配慮者の避難準備等が必要。 住民は通常的生活。	●大岳火口から、大きな噴石と溶岩流が概ね3km、火砕流・火砕サージが概ね6kmの範囲内に影響を及ぼす噴火の発生、またはその可能性。 ●大岳火口から、大きな噴石が概ね3km、溶岩流が概ね2km、火砕流・火砕サージが概ね5kmの範囲内に影響を及ぼす噴火の発生、またはその可能性。 ●積雪期は、大岳火口から概ね6kmの範囲内に融雪型火山泥流が到達、またはその可能性。 過去事例 1世紀頃の噴火
			2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難等が必要。 住民は通常的生活。	●大岳火口から、大きな噴石が概ね2kmの範囲内に影響を及ぼす噴火の発生、またはその可能性。 ●地獄沼火口から、大きな噴石が概ね1kmの範囲内に影響を及ぼす噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 地獄沼火口 13〜14世紀の噴火、15〜17世紀の噴火(2回)
予 報	噴火予報	火口内等	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制、特定地域の避難準備等が必要。	●火山活動は静穏。 ●状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等が噴出する可能性。

※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。
 ※特定地域とは、八甲田山の想定火口に近い所に位置する温泉等の施設が含まれる地域を指す。早期に避難等の対応が必要になることがある。
 ※火口が特定できない場合は、大岳火口及び地獄沼火口の両方の火口からの噴火を想定して噴火警戒報を発表する。
 ※各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町の地域防災計画等で定められています。
 ※最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



測量法に基づく国土地理院長承認(複製) R2JHf214
 本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。